

## 仮想マシン提供機能

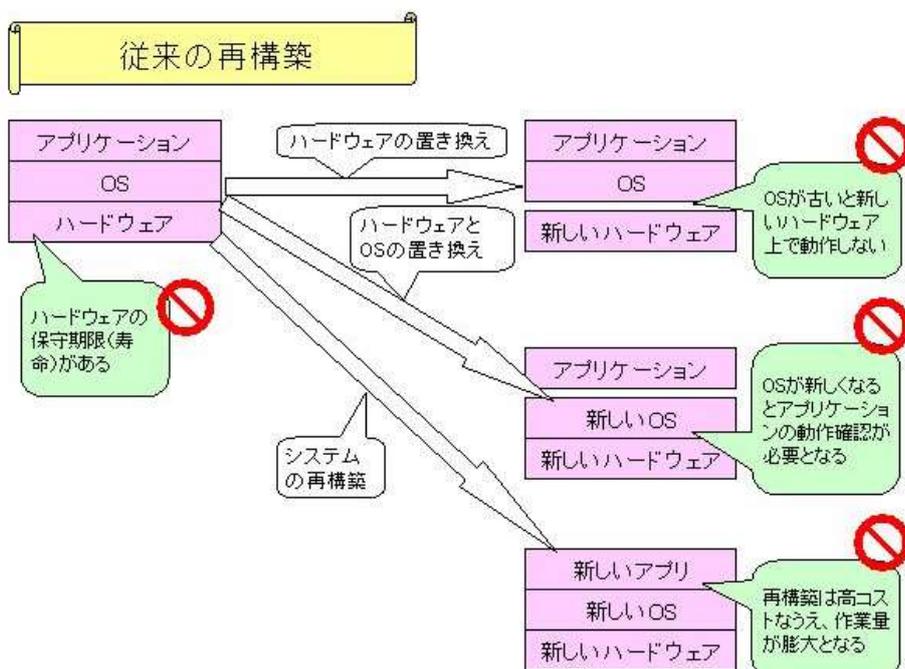
本ページは、統合サーバが提供する機能の一つである仮想マシン提供機能について記載しています。

### 機能概要

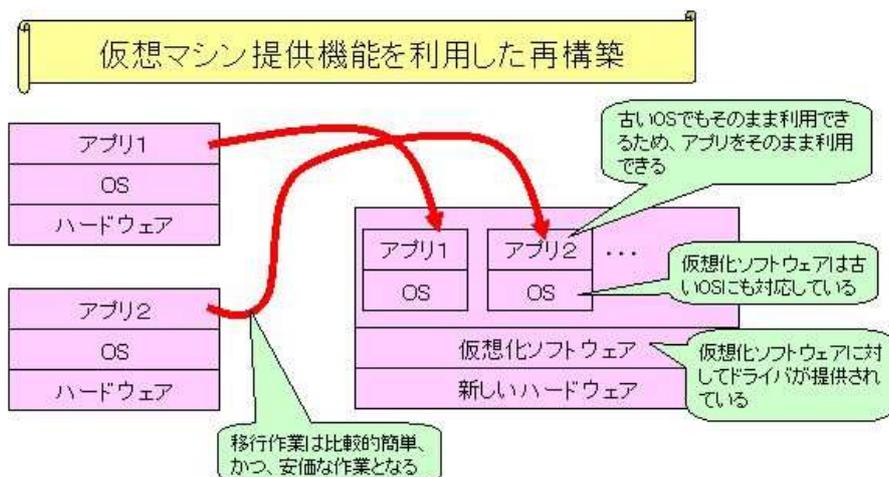
- 仮想マシン提供機能は、統合サーバ上に仮想マシンを作成したうえで、運用に必要な各種機能と併せて各システムに提供します。
- 提供される仮想マシンを利用することにより、安価でセキュリティ対策が施されたシステムを少ない作業負担で、構築することができます。
- 利用にあたっては、ライセンス費用、移行経費、再構築経費等を各所属で負担いただく必要がありますが、ハードウェア費用やバックアップ設定等については、統合サーバ側で対応します。

### 利用効果のイメージ

既存システムを統合サーバへ再構築する場合のイメージ



従来はハードウェアの寿命が来るたびに、難しい再構築をせざるをえませんでした。

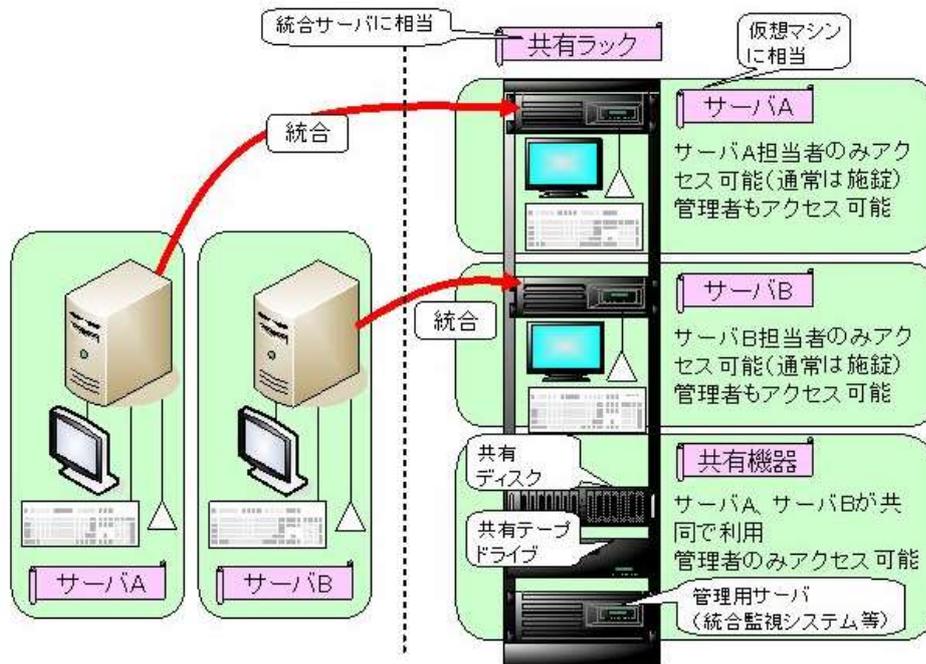


仮想化ソフトウェアを導入することで、既存システムを大きく変更することなく、利用が継続できます。(ハードウェアの寿命に影響されないシステムの運用が可能となります。)

### 利用方法

## 統合サーバの全体イメージ

統合サーバへ統合を行った情報システム(以下、「統合済み情報システム」といいます。)を、統合サーバ上で利用する場合のイメージは、【共有ラック上のレンタルサーバへ既存システムを再構築して利用するイメージ】と似ています。



以下に類似点について、列記します。

- 共有ラック上の各サーバ(各統合済み情報システムに相当)は各サーバの担当者のみしかアクセスできません。
- 共有機器(共有ディスク、共有テープドライブ)は管理者のみしかアクセスできません。
- 各サーバの機器構成(CPUやメモリの増設等)や構成(ネットワークのつなぎ替え、バックアップ設定)は、管理者側で管理しています。
- ハードウェア障害やバックアップ・リストア等の対応は管理者側で対応します。

統合サーバを利用するイメージは、このイメージに似ているため、以下の役割分担をはじめとする項目を検討する際に、参考にしてください。

## 利用上の役割分担

各統合済み情報システムにおける利用上の役割分担は、以下のとおりです。

なお、セキュリティの関係上、情報システム構築・保守業者用の三重県行政WANアカウントの申請をお願いする場合があります。

[Word](#) ヘルプデスク等システム管理用行政WANアカウント交付申請書

	詳細内容	役割分担
ライセンス準備	OS	Windows Server 2019以前のWindows系サーバOSは統合サーバ管理者が準備します。 それ以外のOSのライセンスは情報システム側で準備します。 Red Hat Enterprise Linuxの場合、サブスクリプション契約は購入するだけでなく、利用する期間中は更新していく必要がありますので、ご注意ください。(契約更新しないで利用すると、サブスクリプション契約違反となります。)
	データベース	Oracle Database SE2は統合サーバ管理者が準備します。(ただし、当ライセンスではOracle RACは使用できませんのでご注意ください。) それ以外のデータベースのライセンスは情報システム側で準備します。
	バックアップソフトウェア	統合サーバ管理者側で標準的なバックアップを行うので、基本的に不要です。特殊なバックアップを行うためのソフトウェアライセンスは情報システム側で準備してください。
	仮想マシンの作	

初期構築	成	統合サーバ側で担当
	本番環境への移行	
インストール作業	OS	統合サーバ側で担当
	バックアップソフトウェア	
	その他管理用ソフト (VM Tools)	
	データベース	各統合済み情報システム側で担当
統合作業	システム構築	各統合済み情報システム側で担当
	データ移行	
	稼働テスト	
	バックアップ設定	標準的なバックアップ設定、監視設定は統合サーバ側で担当 特殊なバックアップ、監視を行う場合は情報システム側で担当
	監視設定	
運用保守業務	通常運用業務 (従来業務)	各統合済み情報システム側で担当
	パッチインストール	
	バックアップ	標準的なバックアップは統合サーバ側で担当 特殊なバックアップを行う場合は情報システム側で担当
	障害発生時の一次切り分け	統合サーバ側で担当
	障害対応(ハード障害の場合)	
	障害対応(システム障害の場合)	各統合済み情報システム側で担当
	仮想マシンのリストア	標準的なリストアは統合サーバ側で担当 独自にバックアップを行っている場合は情報システム側で担当
	リストア後のシステム再稼働	各統合済み情報システム側で担当

役割分担については、統合時に必要となる経費に直接反映されますので、統合を行う情報システムを担当している保守業者や統合サーバを担当している保守業者も含めて、事前に詳細まで詰めておく必要があります。

#### 初期構築・インストール作業

初期構築作業やインストール作業における一部の作業において、統合サーバ独自の操作が必要になるものがありますが、ほとんどの作業については、通常のサーバ上での作業と同じ作業となります。

初期構築作業及びインストール作業における独自操作分については、[操作手順書](#)をご確認ください。

なお、運用業務時の操作方法等については、[統合サーバリモート保守機能](#)をご確認ください。

#### ■ 障害時対応

##### 稼働監視機能

統合済み情報システムは、自動的に稼働監視機能により監視され、システムが停止した場合は、通知メール(インターネットメール)が担当者宛に自動で送信されます。(バックアップにかかる通知も送信されます。)

なお、通知メールは統合サーバ管理者側にも送信されていますので、計画的な停止を行う場合は、停止連絡を行ってください。

## 障害時連絡

各統合済み情報システムの障害時においては、以下の対応となります。

時間	対応内容
営業時間内	稼働監視機能からの通知メールを受け取り次第、各担当者宛に連絡を行います。
営業時間外	稼働監視機能からの通知メールを受け取った翌営業日以降に連絡を行います。

注意事項:統合済み情報システム内のシステム障害については、従来通り、各システムで対応いただくことになります。